

いろは呑龍新聞

2020年(令和2年)2月号
第50号

いろは呑龍トンネルに貯めた水を桂川へ放流するポンプ場を造っています。

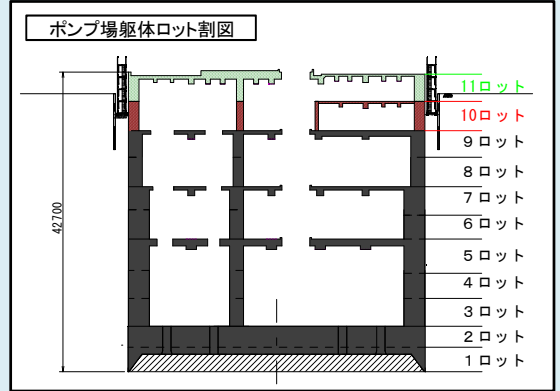
10ロット目コンクリート打設と進捗

2月18日、19日にポンプ場躯体の10ロット目のコンクリート打設を行いました。

10ロットの壁、梁として1,720m³を打設し、累計のコンクリート打設量は全体で約32,700m³の内、約28,320m³となりました(約86%)。全11ロット中、10ロットの構築が完了し、残るは地上部の11ロットのコンクリート打設を残すのみとなりました。

地下作業室内における掘削作業を集中的に進め、予定位置までポンプ場躯体を沈下させた後に、沈設用の艀装設備を解体しながら最終11ロットのコンクリート打設準備を進めていきます。

[沈下状況:全37.6mの内、約31m(約82%)]



コンクリート打設状況



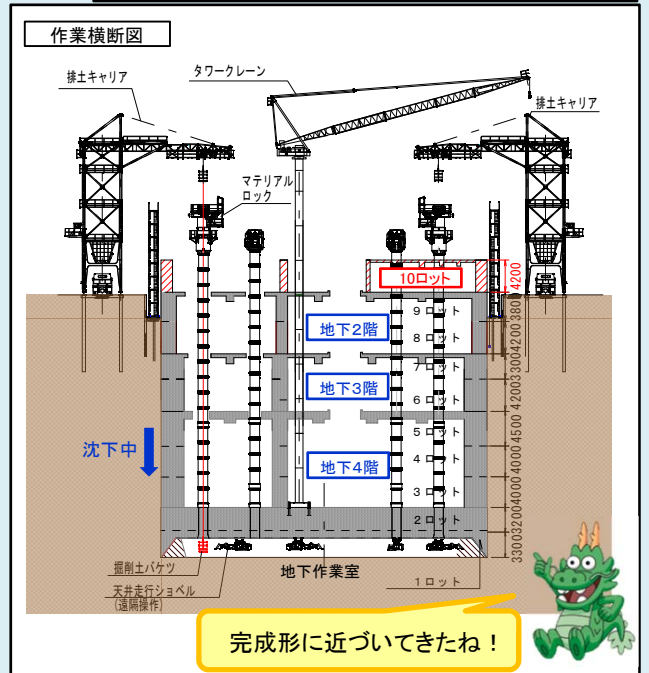
コンクリート打設完了



コンクリート打設状況



土砂掘削状況



天井走行ショベル(掘削機)の遠隔操作

現在、地下作業室の気圧は、地下水の浸入を抑えるため、0.2MPa(水深約20m相当)以上と高くなっています。

高気圧環境下における作業は、作業員の潜函病発症のリスクを伴い、短時間の作業しか行うことができないため、現在の掘削は地下作業室に人が入らず、12台の天井走行ショベルを地上から遠隔操作して掘削しています。

遠隔操作は、天井走行ショベルに取り付けたカメラ映像と室内の映像を確認しながら、一人ずつ天井走行ショベルを操作しています。



遠隔操作室の状況



天井走行ショベルカメラの映像



地下作業室内の状況



見に来てね!



いろは呑龍新聞
バックナンバーはこちらから
<http://www.pref.kyoto.jp/ryuiki/donryu.html>